

## 平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	北海道大学	整理番号	a001
1. 申請分野(系)	人社系		
2. 教育プログラムの名称	人間の統合的理解のための教育的拠点		
3. 関連研究分野(分科)  (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 心理学 社会学 地域研究		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (認知心理学 社会心理学 社会学 地理学 生態・環境)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([ ]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名)		<u>研究科長(取組代表者)の氏名</u> 新田 孝彦
	文学研究科・人間システム科学専攻[博士前期課程]		
	文学研究科・人間システム科学専攻[博士後期課程]		
(その他関連する研究科・専攻名)			
<p><b>5. 本事業の全体像</b></p> <p>5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)</p> <p>中期目標・中期計画の下での大学運営が始動して1年余りが経過し、まさにこれからの数年間が、新しい北大の将来を決める時期といえる。国民から負託された知の創造、伝達および活用という任務を、それぞれ世界水準の研究、真に学生のための教育および社会への貢献として遂行できるかどうか、成果を世に示さなければならない。</p> <p>文学研究科・文学部は50年以上の歴史をもち、日本をリードする文化人を多数輩出してきたが、時代・社会の要請に迅速に対応できる研究者・職業人の育成という現代のニーズに対応した改革が必要である。学位取得者数の増加等の要請に応えるためにも、教育課程の実質化を早急に実現する必要がある。</p> <p>人間の実証的・統合的研究を世界的水準で推進してきた人間システム科学専攻による本教育プログラムは、本学の文理連携型の学院研究院構想にも適合し、将来の大学院教育の展開に重要な役割を果たすことが期待できる。</p>			

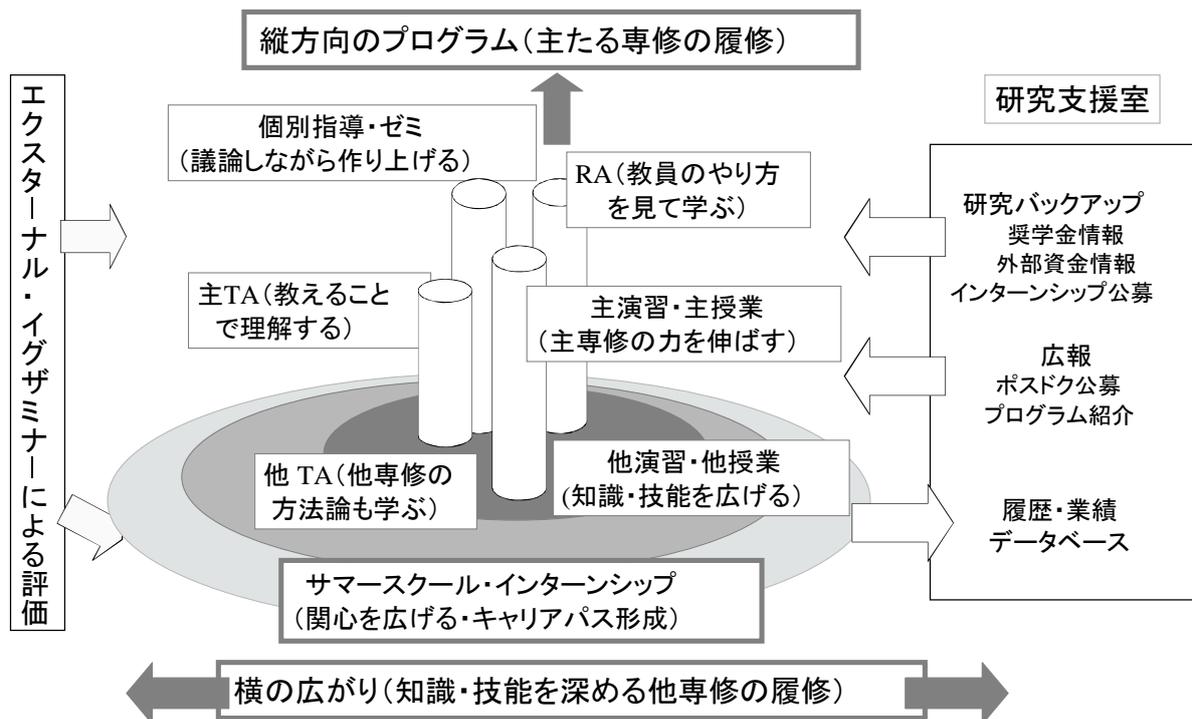
機 関 名	北海道大学	整理番号	a001
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>人間システム科学専攻は①心理システム科学講座(認知心理学, 認知科学, 実験心理学), ②行動システム科学講座(社会心理学, 文化心理学, 環境心理学), ③社会システム科学講座(福祉社会学, 教育社会学, 国際社会学), ④地域システム科学講座(地域社会学, 地理学, 保全生態学)からなり, ①心理システム科学と②行動システム科学は心理学実験により, ③社会システム科学と④地域システム科学は社会調査・聞き取り調査, フィールドワークにより科学的・実証的な人間理解を目指して来た。</p> <p>本専攻における大学院教育の特徴は, ①各ディシプリンの訓練のほか, 専攻に共通の授業を通して, 微視的および巨視的な両方の観点を併せ持った研究者, ②国際学術誌への投稿, 国際学会での発表, 国内外の研究交流等を通して, 国際的水準で研究のできる研究者を養成してきたことである。本専攻の前身である心理学専攻と社会学専攻は多くの研究者, 高度専門家を世に送り出し, これらの人材は大学, 研究所, 公官庁, 企業等に就職し, 教育, 医療, IT, 農業, 司法等の領域で活躍している。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>本教育プログラムは認知心理学, 社会心理学, 社会学, 地域科学の複数のディシプリンをもつ研究者, 高度職業人の養成及び, 国際レベルの研究の推進とともに, その成果の社会への還元を目的とする。心理学実験では, 変数間の因果関係を詳細に分析することはできるが, 地域, 環境, などの巨視的な視点を欠くことが多い。社会調査やフィールド研究では, 社会や地域全体の動態は解明できるが, 環境要因が個人に及ぼす影響を微細に観察できないことがある。そこで両者を有機的に組み合わせた教育基盤を作り, 主たる専修を追究する能力を高めつつ, 同じ問題を別の視点からも検討できる能力を育てる。具体的には以下の6点により, 実習を含む多様な活動と, 国内外・産官学の交流を促進し, 問題を多角的に検討できる柔軟な研究・問題解決力を養う。</p> <p>①人間の統合的理解・研究を支援する研究支援室を設立する。②産官学の多様な学生を受け入れ, ニーズに応じたコースワークを設定する。③北海道の地の利を活かしサマースクールを開き, 専門知識のインタラクティブな短期習得を支援する。④国内外のポスドクを受け入れ, 研究交流を図る。⑤産官学をつなぐ国内外のインターンシップを推進する。⑥エクスターナル・イグザミネーによる評価, すなわちピア研究者の現場参加による教育実践・研究成果の評価を推進する。</p> <p>人文学の伝統的な教育方法が, 自由な, やや放任的なものであったとすれば, 本教育プログラムはそれとは異なる, 明確な目標, 強力な指導・評価体制をもつ教育課程の実質化を目指す。</p>			

6. 履修プロセスの概念図

1) 履修プロセスの概要

履修プロセスは、縦方向のプログラム(主たる専修の履修)と横の広がり(他専修の履修)により構成される。主たる専修の授業、演習、TA活動を、主授業、主演習、主TAと表す。また、他専修に関わる授業、演習、TA活動を他授業、他演習、他TAと表す。

サマースクールは縦・横の教育を拡充し、インターンシップでは産官(NGO, JAICA, 道庁等)との交流を通して、キャリアパスへの展望をもたせる。これらのプロセスは研究支援室のバックアップを受け、エクスターナル・イグザミナーによって評価される。



2) 博士前期課程、博士後期課程における履修プロセスの展開

履修が義務づけられる／強く推奨されるプログラムを◎, 選択的に履修することが望まれるプログラムを○で示す。

プログラム	博士前期課程		博士後期課程		
	1年	2年	1年	2年	3年
指導教官による個別指導	◎	◎	◎	◎	◎
指導教官によるゼミ	◎	◎	◎	◎	◎
主授業	◎				
主演習	◎	○	○	○	
主TA	○		○		
RA				○	
研究報告書I			◎		
研究論文I			◎		
研究報告書II				◎	
研究論文II				◎	
他授業	◎				
他演習	◎	○	○	○	
他TA		○			
サマースクール	○	○	○	○	
インターン	○	○	○	○	

縦方向のプログラム

横の広がり

機 関 名	北海道大学	整理番号	a001
<p data-bbox="165 199 588 232">&lt; 審査結果の概要及び採択理由 &gt;</p> <p data-bbox="165 295 1428 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 490 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 535 1428 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 629 1225 663">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 678 1428 806">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が優れており、期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開も期待できると判断され、採択となりました。</p> <p data-bbox="189 822 1206 855">なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 918 633 952">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="165 967 1428 1189" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="165 967 1428 1095">・これまでの実績を踏まえながら、現実的かつ堅実な組織化、制度化が構想されている。特に、大学の教務関係、教育戦略の位置付けが優れており、エクスターナル・イグザミネーによる評価の導入と研究支援室の設置の効果が期待できる。</li> <li data-bbox="165 1111 1428 1189">・「人間の総合的理解」の中味がなお抽象的であり、目標を実現するための施策がやや具体性に欠けている点については、さらなる検討が必要である。</li> </ul>			